

2010年度

科目名	ゼミナールⅠ				
担当教員	尾川 信之				
配当	人社3			コード	33920
開期	通年	講時	水曜日3限	単位数	4
授業テーマ	新聞・雑誌のビジネス関連記事から将来を洞察する力を養う。				
目的と概要	<p>日本経済新聞社主催の日経TEST大学ゼミ対抗戦の上位入賞を目指します(全国の大学が参加)。経済知力は、経済の仕組みや流れを理解し、新しいビジネスを生み出す能力を意味します。これからのビジネスリーダーを目指す人材に求められる必須の能力です(日経TESTホームページより)。日経TESTで各自が600点以上(1000点満点)を目標に、初心者レベルから段階を踏んで学習していきます。ゼミでは各自がテキストや新聞の解説を行い、学生どうしの討議を通して、知識とビジネス記事の読解力を高めていきます。また、学生各自が自ら日経TEST対策模試問題を作成し、それを他のゼミ生に実施させるとともに、解説をします。これによって、より知識を深めます。そして、10月の日経TEST大学ゼミ対抗戦、翌年4月の日経TEST(一般受験)に臨みます。後期はこれらの読解力・分析力を駆使して、各自が関心のある企業について研究します。以上を通じてビジネス関連能力を身につけ、4回生の卒業研究が高度なものになるよう繋げていきます。</p>				
成績評価法	<p>ゼミでの貢献度、毎回の日経TEST対策模試結果、発表資料により評価します。  前期:ゼミでの貢献度(40%)、模擬試験(60%)  後期:ゼミでの貢献度(40%)、発表資料・プレゼンテーション(60%)  ゼミを前期・後期のそれぞれにおいて5回以上欠席した場合は、単位非認定となります。</p>				
テキスト	<p>論点解説日経TEST(日本経済新聞出版社)、日本経済新聞の読み方2010-2011(日本経済新聞出版社)  *購入については、指示します。</p>				
参考書	必要に応じて紹介をします。				
履修に当たっての注意・助言	<p>・将来、ビジネスの世界に進もうとする方にとって、知識やスキル以上に大切なのがマナーや時間管理などの社会性を備えた日常の振る舞いです。本ゼミを希望する方にはそのような心構えをお願いします。従って、遅刻は欠席扱いとなり、その日に課した模擬試験を提出されても採点対象から除かれます。  ・夏季休暇中に日経TEST大学ゼミ対抗戦追い込み集中ゼミを2回(各3日間)を行います。  ・今年10月の日経TEST大学ゼミ対抗戦に参加します。</p>				
講義計画					
<p><b>【前期】</b>  1. ガイダンス  2～3. 日本企業の経営を読む(論点解説日経TESTを使用)  4. 消費・流通の動きをとらえる(論点解説日経TESTを使用)  5～6. 日本経済の論点(論点解説日経TESTを使用)  7～8. 金融の課題(論点解説日経TESTを使用)  9. 株式・商品市場を読み解く(論点解説日経TESTを使用)  10. 現代の科学技術をどうとらえるか(論点解説日経TESTを使用)  11. 危機に瀕するグローバル経済(論点解説日経TESTを使用)  12. 変わる働き方と教育改革(論点解説日経TESTを使用)  13. 日経新聞の紙面構成(日本経済新聞の読み方を使用)  14. 企業・業界動向・景気など個別記事の読み方1(日本経済新聞の読み方を使用)  15. 企業・業界動向・景気など個別記事の読み方2(日本経済新聞の読み方を使用)</p> <p><b>【後期】</b>  各自が研究対象とする企業を決め、新聞、雑誌、学術書、学術文献、インターネットなどを駆使して調査を行い、多方面から企業の解剖学的研究を行う。なお、必要に応じて個別指導を行います。  16. 研究対象企業の申告  17. 研究計画の発表  18～24. 研究経過の報告、討議、指導  25～27. 発表資料の作成  28～30. 発表</p>					